

俳句

【小学1年生・2年生】

特選 ねこじやららしゆらゆらゆれてかぜにのる

稲枝西小学校2年 表西 真穂

(評) 季語は「ねこじやらし」です。ねこじやらしがゆれている様子を「かぜにのる」と表したところが、とてもすてきです。作者は登下校、または誰かと散歩している途中だったのでしょうか。ねこじやらしに自分たちを重ねて見たのかもしれないですね。

(彦根文芸協会 堀田 民)

特選 つくりだきみずはつめたいきもちいい

稲枝東小学校1年 大西 和奏

(評) 季語は「つくりだき」です。きれいに造られている滝をながめていると、水が冷たそうだな、気持ちよさそうだなと思つたのでしょうか。涼やかな滝の音が聞こえてくるようです。

(彦根文芸協会 堀田 民)

特選 あまつぼ山ぼうしかぶったどんぐりだ

平田小学校1年 佐藤 奏斗

(評) 季語は「どんぐり」。どんぐり見つけるは秋の楽しみの一つですね。「あまつぼ山」はどんぐりのたくさん落ちている自然豊かなところですね。「ぼうしかぶった」どんぐり見つけて歓声をあげている姿が目には浮かびます。

(彦根文芸協会 堀田 民)



準特選 さつまいもやけたにおいがにかいまで

亀山小学校2年 永江 真子

(評) 季語は「さつまいも」です。二階かいの自分の部屋へやまで、おいしい匂いがしてきたのでしよう。幸せそうな顔が、目に見えるようです。

(彦根文芸協会 堀田 民)

準特選 うんどうかいにんじやになってはしったよ

佐和山小学校1年 山崎 琉虎

(評) 季語は「うんどうかい」です。作者は、誰だれよりも速はやく走るぞという気持で、「にんじや」になったのですね。応援おうえんの歓声かんせいの中、素早くゴールまで駆け抜けた姿が、目に浮かぶようです。

(彦根文芸協会 堀田 民)

準特選 まつたけがごはんに入いっていいかおり

佐和山小学校2年 北村 幸太

(評) きこの王様とも言われる「まつたけ」が、季語です。「まつたけごはん」は、秋のごちそうですね。いい香りの中、笑顔えがわで、食卓しょくたくを囲む家族の様子が目に浮かびます。

(彦根文芸協会 堀田 民)

準特選 たなばたのひはかかなくちやねがいごと

佐和山小学校2年 川村 萌乃佳

(評) 季語は「たなばた」です。この季節は、どこにでも、願ねがい事ことを書かいて竹たけに飾かざれるように、筆記用具ひきぎようぐと短冊たんさくが置いてあります。だれもが思わずペンをとる姿が見られます。どうぞお星様ほしさまに届とどきますように。

(彦根文芸協会 堀田 民)

準特選 きりぎりすげんかんまえにとまっていた

佐和山小学校1年 池田 晴

(評) 季語は「きりぎりす」です。玄関前げんかんまえに、小さな命を発見して句くに取り上げたところに、作者の優しい気持きもちを感じます。あなたのことを待まちっていてくれたのかも知れませんね。思わずつぶやいてしまいました。

(彦根文芸協会 堀田 民)

佳作 朝のいけあめんぼはねるすいすいと

城西小学校2年 本田 紘生

佳作 どんぐりはいろなおもちやつくれるよ

城北小学校2年 中川 美沙

佳作 がっこうではじめてみたよこおろぎを

平田小学校1年 古川 倅愛

佳作 おちばがねかぜにふかれてだんすした

亀山小学校1年 大方 和來

佳作 あかねずみどんぐりだいすきのこそうよ

城北小学校1年 香水 結衣

佳作 もみじがりきれいないろにつつまれて

城北小学校1年 川西 大翔

佳作 どんぐりのふたごがいるよかわいいな

亀山小学校2年 若林 千晴

佳作 やきいもをたべたらこころあったまる

佐和山小学校2年 増田 妃那

佳作 どんぐりがおちてこないよ木をゆらす

稲枝西小学校1年 嶋本 慧向

佳作 下見たら赤いジュータンもみじのは

佐和山小学校2年 前田 湊斗

佳作 ながればしおねがいしたらほんとになる

佐和山小学校2年 上野 真寛

入選 あかとんぼきれいなゆうひすてきだな

城北小学校2年 堤 涼

入選 かわいいなくなりのかたちはやまみたい

亀山小学校1年 山内 春陽

入選 びわこがんだんぐりひろうあめあがり

亀山小学校1年 北川 大起

入選 ゆうごはんさんまのしおやきおいしいな

亀山小学校2年 小澤 梨央

入選 うんどうかいたまいれまけてくやしいな

佐和山小学校1年 江波 弘希

入選 そとにでてきんもくせいのかおり

佐和山小学校2年 西岡 あんな

入選 さつまいもとどけてくれるよおばちゃん

佐和山小学校2年 岩渕 将

入選 こおろぎはならしているよおんがくを

佐和山小学校2年 岸本 咲娃

入選 クリスマスさんたくるかなたのしみだ

佐和山小学校1年 松本 康正

入選 くりすますみなでおにくおいしいな

佐和山小学校1年 人西 玲奈

入選 ひまわりがわらっているよねうれしいよ

佐和山小学校1年 山本 瑛汰

入選 ハロウィンにまじよのかそうでさあ出はつ

稲枝西小学校2年 中林 雅人

入選 こおろぎがはっぱの後ろにかくれてる

佐和山小学校2年 瀧本 小町

入選 うんどう会ビデオでとっておかあさん

佐和山小学校2年 水野 巧貴

入選 あおぐみがうんどうかいでかちました

平田小学校1年 吉岡 大

入選 きれいだなあきのよぞらにひかるほし

平田小学校1年 西村 栞



## 【小学3年生・4年生】

特選 ちからこめしよどうのじゅぎょういものもじ

佐和山小学校3年 沼波 葵

(評) 太筆に墨をたつぷりつけて真っ白な紙に筆をおろしていくしゅんかんはとてもきんちようしますが、気持ちよさも感じます。初めの五音「ちからこめ」で作品作りへの強い意気込みが伝わってきます。書き上げた「いも」の文字、のびのびと勢いがあるでしょうね。季語は「いも」(秋)です。

(彦根文芸協会 北川 則子)

特選 まんげつが大きく見えたすごかった

旭森小学校3年 楠居 廉也

(評) 一年中でもっとも美しいといわれる十五夜の月です。とても明るくて、まん丸で手が届きそうなくらいだと表現する人もいます。雲もなく、ふだんよりずっと大きく、すっきり見えたんですね。「すごかった」という言葉で月の大きさにとても感動したことが伝わってきます。「大きくみえた」「すごかった」「た」が菌切れよいです。季語は「まんげつ」(秋)です。

(彦根文芸協会 北川 則子)

特選 帰り道手のひらいっぱいいきんもくせい

旭森小学校4年 松近 呼春

(評) 秋になると黄たいだい色の小さな花をいっぱいつけてよい香りをふりまく金もくせい。少し離れたところからでも足を止めたくなるほど香りがただよってきます。作者は、散った金もくせいの花を手のひらにのせて、そのなんともいえない香りにつつまれながら帰ったのでしょう。「いっぱい」の言葉からよい香りがとどきそうです。季語は「きんもくせい」(秋)です。

(彦根文芸協会 北川 則子)

特選 ふん水がシャパシャパとおとたてる

城北小学校3年 中島 知音

(評) 夏の暑さの中で、ふきあげる水を目にするだけでも少し暑さがやわらぎます。高さや形を変えるしかけのおもしろさを楽しむこともできますが、作者はふん水の音にひかれ「シャパシャパシャパ」と表現しました。音のくり返しや「おとたてる」で水がはね返って水面をたたいている様子がわかります。季語は、「ふんすい」(夏)です。

(彦根文芸協会 北川 則子)

特選 昨日のこめしんまいだったきょうもかな

旭森小学校4年 宇田 寛太

(評) しゅうかくしたあとの新米は、とてもいい香りがして水分も多いですね。それにつやつやしていて、見るからにおいしそうです。その新米を昨日食べてきつとおいしかったのでしよう。きょうも新米だったらいいのになという期待感が「きょうもかな」の言葉に素直に表現できました。季語は「しんまい」(秋)です。

(彦根文芸協会 北川 則子)



準特選 下校中パリパリパリと落ち葉ふみ

稲枝西小学校4年 西田 寧花

(評) こうようしていた葉も、冬になると落ちはじめ、公園や庭、境内などをうめつくします。落ち葉にはしめった音、かんそうした音、積もった音など、落ち葉の様子によってさまざまです。「パリパリパリ」なのでかわききっているのでしょう。このように音の表し方を工夫することで俳句がいきいきしてきます。作者が落ち葉の音を楽しみながら歩いて帰る様子が目に浮かびます。季語は「落ち葉」(冬)です。

(彦根文芸協会 北川 則子)

準特選 家を出て春風が吹く通学路

亀山小学校4年 河野 馨

(評) 学校までの通学路、元気に登校する子どもたちによさしい、あたたかい春風が吹いてきたのでしよう。新学期がスタートし、新しいことがはじまりそうなわくわくした気持ちに春風に乘せられているようです。季語は、「春風」です。

(彦根文芸協会 北川 則子)

準特選 ばらの花ささるといたいくきのとげ

稲枝東小学校3年 大西 詩楽

(評) ばらというと、赤や白、ピンク、黄色など色あざやかな花を句に詠むことが多いのですが、作者はばらにさわつてするどいとげのいたさを実感しました。このように、見る、聞く、さわる、においをかぐなど体のいろんなところを働かせて俳句を作ることが大切ですね。季語は「ばら」(夏)です。

(彦根文芸協会 北川 則子)

## 準特選 運動会みんなでリレー新記録

金城小学校4年 米谷 稜咲

(評) リレーは、運動会で、もり上がる種目の一つですね。本番までにチームみんなで作戦をたてたり、バトンパスの練習をしたりして記録をちぢめるためにがんばってきたのだと思います。新記録がでたとわかったしゆんかんはとてもうれしかったでしょうね。「みんなで」と、「新記録」の言葉から、やった、よかったですという喜びの声が聞こえてきそうです。季語は「運動会」(秋)です。

(彦根文芸協会 北川 則子)

## 準特選 もみじの木きれいないろをみにきたよ

城陽小学校3年 内藤 璃澄

(評) 秋が深まってくると葉が色づく木がたくさんあります。中でももみじは代表的でたくさんの方の目を楽しませてくれます。中の句「きれいないろ」とはどんな色をさしているのでしょうか。赤、しゅいろ、だいたい、黄色と読み手にいろいろ想像させる言葉ですね。このもみじの木は、いままでにも見に来てそのきれいないろをよくしっているようですね。「みにきたよ」の言葉かけがやさしくひびきます。季語は、「もみじ」(秋)です。

(彦根文芸協会 北川 則子)

## 準特選 ゆらゆらとかぜにゆれてるねこじゃらし

稲枝西小学校4年 因幡 慎一

(評) 秋になると、空き地や道ばたなどいろいろなところに生はえているねこじゃらし(えのころ草)。茎はとても細いけれど、かたくておれない植物です。この時の風は、あまり強い風ではなかつたようですね。「ゆらゆら」の言葉からうかがえます。風の吹くままゆれている様子が素直に表現できました。季語は、「ねこじゃらし」(秋)です。

(彦根文芸協会 北川 則子)

## 準特選 たくさんのおきのななくさみつけたよ

旭森小学校4年 後藤 優李

(評) はぎ、すすき、くず、なでしこ、おみなえし、ふじばかま、ききようが秋の七草です。秋になると野原や道ばた、山すそなどにピンクや黄色、白、紫などの花をつけます。「たくさんのおきの」の五音を初めに使い、読み手にどのくらいだろうと想像させる言葉の並べ方はうまいですね。作者は、きつと草花が好きでかなり関心をもっているのでしょうか。季語は「秋のななくさ」です。

(彦根文芸協会 北川 則子)

準特選 うんどうかいこえかれるまでおうえんだ

佐和山小学校3年 土居 尊

(評) 「こえかれるまで」という言葉から、きょうぎをしている人たちに声がとどくよう、大きな声でいっしょうけんめいおうえんしている様子が目に浮かびます。「おうえんだ」の「だ」からも強い意志を感じます。おうえんにこたえてきょうぎをしている人たちもきつと大きな力をもらったと思いますよ。季語は「運動会」(秋)です。

(彦根文芸協会 北川 則子)

準特選 秋の山赤や黄色のお祭りだ

平田小学校4年 佐野 碧哉

(評) 緑だった山も、こうようがどんどん進んでいくととても美しいけしきに変わっていきます。色づいた山の様子を「お祭りだ」と表現したことで、山がいろいろな色でにぎわっている様子がえがけます。俳句では何かにたとえて表現するとより読み手にわかりやすくつたえられることもあります。発想がとても豊かな俳句です。季語は、「秋の山」です。

(彦根文芸協会 北川 則子)

佳作 サツマイモもどんどんほってでてきたよ

佐和山小学校3年 中林 楓翔

佳作 かまきりがじてんしゃついてびっくりだ

平田小学校3年 堀内 優

佳作 運動会二位になれたようらしいな

旭森小学校3年 庵 結月

佳作 ゆうごはんやまがたけんのしんまいだ

旭森小学校4年 一宮 佳歩

佳作 きれいだなまだまだ見たいお月さま

旭森小学校4年 石原 和花

佳作 すずむしをかいはじめたらねむれない

稲枝西小学校3年 石飛 陸翔

佳作 真つすぐに夕日に向かう赤とんぼ

佐和山小学校3年 清水 絢生

佳作 コオロギに合わせてふくよりコーダー

佐和山小学校3年 原田 希花

佳作 ひらひらと夕やけ色の紅葉まう

佐和山小学校3年 北川 琉之祐

佳作 雨がふりどんどん秋に近づいた

佐和山小学校4年 橋本 昌哉

佳作 さつまいもみんなのでつくるかりんとう

城東小学校3年 南地 湊

佳作 運動会応援席から大歓声

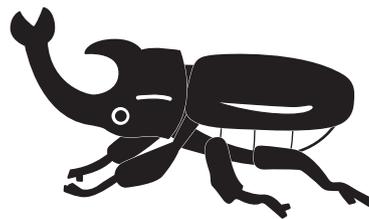
城北小学校4年 金子 蓮

佳作 じゅうがつはあかるいひぎしまぶしいな

城陽小学校3年 高田 陽聖

佳作 かぶとむしりっぱなつのがきれいだな

平田小学校3年 山本 春音



入選 みあげたらそこにきれいなもみじいろ

旭森小学校3年 河野 縁

入選 がっこうに落葉がいっぱいおちていた

旭森小学校3年 福永 彩乃

入選 音がなるまつぼっくりのマラカスだ

旭森小学校3年 白石 悠馬

入選 いっぱいなかれはがおちてきれいだな

旭森小学校4年 寺田 希愛

入選 こうようはうきうきするよえにかくと

旭森小学校4年 藤谷 夏帆

入選 くりご飯手間がかかるがおいしいよ

旭森小学校4年 佐藤 碧

入選 あせだくだおでこにいっぱいいたらだと

城南小学校3年 山中 莉子

入選 赤ふじをねむた目こすり味わった

城南小学校3年 前田 茉帆侶

入選 どんぐりがぼろぼろおちていっぱいだ

稲枝西小学校3年 山村 柚歩

入選 流れ星きれいながれさいこうだ

稲枝西小学校4年 野村 真之介

入選 元気かな毎日見てるメダカたち

亀山小学校3年 石居 歩真

入選 ラグビーだすごいタックルできるかな

亀山小学校4年 山口 凜太郎

入選 かえりみちはだでかんじたあきのかぜ

亀山小学校4年 株戸 絆

入選 こおろぎがくらいとこでなっている

佐和山小学校3年 宮田 耀大

入選 秋の空雲がいったいいい気持ち

佐和山小学校3年 田中 幸代美

入選 あかトンボぼくのゆびさきとまったよ

佐和山小学校3年 森岡 樹生

入選 あきのそらいつもとちがういろだなー

佐和山小学校3年 上田 紗矢

入選 書写の時間秋らしい事書いてみた

平田小学校3年 西村 ななみ

入選 夏終わり赤が広がる自然界

平田小学校4年 久保 美優

入選 すずむしはいつもみんなでおんがくかい

若葉小学校3年 杉 奏志

入選 どんぐりをみんなであつめネックレス

若葉小学校3年 荒尾 侑愛

入選 風揺られ紅葉がひらり手に落ちる

城北小学校4年 勝居 海翔

入選 楽しいなあまつぼっくりのビンゴだよ

旭森小学校3年 北川 瑠

入選 秋の虫もうないているおだやかに

稲枝西小学校3年 西村 菜那

## 【小学5年生・6年生】

## 特選 藤棚に届きそうだよぼくの背が

亀山小学校6年 田中 漣

(評) 毎年、藤の花が咲く季節に、作者はこの場所を訪れているのでしょう。房状に垂れ下がった花の先すれすれのところを家族と一緒に歩いていて作者が目につかなくていいです。去年からずいぶん身長が伸びたんですね。この場所での成長を知ることができた喜びは、きっとご家族の皆さんにも伝わっていると思います。「藤棚」は春の季語です。

(彦根文芸協会 林 尚子)

## 特選 まんまるなぶどうの一粒いただきます

城西小学校5年 田村 東子

(評) 「ぶどう」は秋の季語です。このぶどうは高価なシャインマスカットでしょうか。「いただきます」の五音から、一房のぶどうから、しかも実のぎゅっと詰まった一粒を大事に指でつまんでもぎ取り、今から食べようとしている様子が、まるで動画のようにゆっくりと流れてくるのです。作者の嬉し<sup>うれ</sup>そうな表情や、ぶどうの味までも伝わってくる作品です。

(彦根文芸協会 林 尚子)

## 特選 ステージでマイクがさけぶ夏祭り

城東小学校5年 若林 美月

(評) 昨年五月にコロナが規制<sup>きせい</sup>緩和<sup>かんわ</sup>され、夏祭りが実施された地域もあったことでしょう。さぞ、夏祭りは盛り上がりだと思像します。実際にさけんでいるのはマイクの前の人物ですが、「マイクがさけぶ」と表現した作者の感性が素晴らしいです。比喻(たとえ)を使って「夏祭り」をダイナミックに表現できました。

(彦根文芸協会 林 尚子)

## 特選 秋の夕よごれすぎたよユニフォーム

旭森小学校5年 峯岸 流空

(評) 秋の夕暮れ時は日ごとに早くなっています。作者は、野球、それともサッカーのチームに入っているのでしょうか。試合を終えた今、試合中は気づかなかったユニフォームの汚れが、沈む夕日とともに鮮明になってきたのです。作者は一言も今日の試合のことを語ってはいません。しかし、作者の頑張りや活躍をユニフォームが語っている素敵な作品となりました。

(彦根文芸協会 林 尚子)

## 特選 かあさんと拾った木の实植えてみた

城東小学校5年 横山 美羽

(評) 「木の实」は秋の季語です。木の实は、樫の木や椎の木などにできるどんぐりの事です。「拾った木の实」は七音で、調子が整っています。作者がこの季節を知っていて、俳句に使えるなんてさすがです。作者はもちろんのこと、お母さんも次の春が待ち遠しいことでしょう。芽が出ますように。この作品から、家族の温もりも感じられます。

(彦根文芸協会 林 尚子)



## 準特選 つゆの時期雨がふる日は雨踊る

稲枝東小学校5年 藤野 弥優

(評) 梅雨の時期は、うつつうしくて蒸し蒸しする…そんなイメージを払いのけてくれる作品です。「雨踊る」の五音から、どんなリズムで、どんなボリュームで雨が聞こえてくるのか想像しただけでも心がワクワクして楽しくなります。作者のプラス思考で梅雨をとらえたことで、素晴らしい作品作りになりました。

(彦根文芸協会 林 尚子)

## 準特選 通る道きんもくせいのおいにおい

城西小学校5年 松田 多緒

(評) 五感(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)の臭覚を使った作品です。いつもの道が、「きんもくせい」の香る時期には以前とは違うとても素敵な道になることに気づいたことを素直に表現した作品です。四季折々の変化を鋭くとらえて言葉にする事をこれからも続けてほしいと思います。

(彦根文芸協会 林 尚子)

## 準特選 赤とんぼ追いかけてまわす弟よ

城西小学校5年 谷垣 和佳

(評) 「弟よ」と、あどけない弟の姿に見入っている作者。赤とんぼは群れになって飛んでいるのでしょうか。追いかけても、追いかけても、なかなか捕まえられないのかもしれませんが、それを楽しんでいる弟さんの姿。そんな兄弟の姿と仲の良さが目にかぶ作品です。

(彦根文芸協会 林 尚子)

準特選 ふんすいのはもんがとんでピチャピチャチャ

城西小学校6年 本田 彩葉

(評) 俳句は五感(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)を使うとオリジナリティ(創意)に富んだ素敵な作品になります。まさに、波紋の音を擬音語「ピチャピチャチャ」を使って、独創的な作品に仕上がりました。「ふん水」「波もん」「飛んで」等、習った漢字を使って表記すると読む人にもっとわかりやすくなります。

(彦根文芸協会 林 尚子)

準特選 運動会みんなで見せた演技かな

城西小学校6年 寺澤 凜太郎

(評) 俳句の詠嘆「かな」が使われた作品です。「かな」は、今感じている感動を表します。「みんなで見せた」と言い切っているところに、これまでたくさん練習を積んで、当日見事にやり切った作者の充実感や満足感が伝わってきます。その感動が「演技かな」に込められています。

(彦根文芸協会 林 尚子)

準特選 夕ぐれのもみじちりゆく帰り道

稲枝西小学校5年 辻 蒼生

(評) 「真つ赤な秋」の歌が浮かんできました。夕日に照らされた道。もみじが散りゆく道。赤色、黄色、オレンジ色が混ざり合って、なんと美しい景色の中に作者はいるのでしょうか。一人なら景色を独り占め、友達と一緒になら明るい笑い声が聞こえてきそうな作品です。

(彦根文芸協会 林 尚子)

準特選 もみじのはなんどはいてもおちてくる

平田小学校6年 山本 花音

(評) もみじを見るのは美しくてよいのですが、落ちてくると掃除が大変です。作者の体験を十七音に上手くまとめました。「何度はいても」から、大きくて立派なもみじの木だと分かります。また、ご近所さんへの心遣いも感じられる俳句です。「もみじの葉」「落ちてくる」と習った漢字を使うと読む人にわかりやすくなります。

(彦根文芸協会 林 尚子)

準特選 ふく風は立秋知らせる便りかな

平田小学校6年 西村 いろは

(評) 「立秋」は八月七日頃にあたります。まだまだ暑い時期ですが、秋の季語です。吹く風の変化を敏感にとらえました。そして、その小さな気づきを元にして俳句を作った作者。「立秋知らせる便り」とは、なんと上品で洗練された表現かと感心しました。

(彦根文芸協会 林 尚子)

佳作 がまのほはスポンジみたい不思議だな

城南小学校6年 山中 亮太

佳作 名月やまんまる黄色く光ってる

城北小学校6年 林 璃皇

佳作 春の空きりのかかったうすい青

旭森小学校5年 小山 陽紗

佳作 夏の夜一番星が光ってる

旭森小学校5年 尾形 彩

佳作 渋皮を初めてむいた栗ご飯

稲枝西小学校5年 上林 眞彩

佳作 頑張った運動会は準優勝

稲枝東小学校5年 大西 優音

佳作 寒暖差服装迷う秋の朝

亀山小学校5年 石居 陽登

佳作 寒くてもいつも頑張るお母さん

亀山小学校6年 田中 那由翔

佳作 夜空には数え切れない銀河あり

亀山小学校6年 山口 龍馬

佳作 赤とんぼ池の周りに集まるよ

城西小学校5年 林 優和

佳作 緑から緋色にお着がえ紅葉さん

城西小学校6年 西畑 知咲

佳作 楽しかったウォークラリー鹿だらけ

城陽小学校6年 谷口 柊花

佳作  
なつによるカエルがケロとないている

旭森小学校5年 森

大和



入選  
最近はサンマが高いでしょう

亀山小学校5年 山崎 里桜

入選  
くやしいな出れずに終わった運動会

平田小学校6年 上林 良輔

入選  
楽しいなみんなで応援運動会

金城小学校5年 久保 奈乃羽

入選  
赤とんぼゆうぐにかくれかくれんぼ

佐和山小学校5年 高橋 かのん

入選  
大好きないつものベンチもみじいろ

佐和山小学校5年 吉本 絢音

入選  
足元にころがるいがから栗ちらり

城西小学校5年 植田 篤郎

入選 幼い子足どり軽き七五三

城東小学校6年 江口 果凜

入選 コスモスが道のすみっこ生きている

城東小学校6年 松田 帆高

入選 お月様まるで夜空の宝石だ

金城小学校5年 山野 宏明

入選 秋の日は気持ちのいい朝やってくる

平田小学校6年 國元 葵

入選 秋の朝しずかなときにとりのこえ

平田小学校6年 圓城 結梨奈

入選 冬休みみんなが遊ぶ楽しいな

稲枝東小学校5年 ムルデイ 海瑠

入選 登下校道にたくさん彼岸花

稲枝東小学校6年 岡崎 結花

入選 去年より秋が来るのが遅かった

稲枝東小学校5年 前田 蓮美

入選 癒される手が届きそうお月様

稲枝東小学校6年 小林 愛菜

入選 ダンゴムシおちばのしたでみつけたよ

旭森小学校5年 羽瀨 謙心

入選 もみじがねお花みたいに明るいです

旭森小学校5年 佐藤 匠

入選 秋の朝空気がすんできれいだな

旭森小学校5年 山内 楓真

## 【中学生】

## 特選 帰り道コスモスゆれるテスト明け

西中学校3年 徳永 明李

(評) 「コスモス」が秋の季語。全てのテストが終わったあとの下校時の気持ちを「コスモスゆれる」に託しました。その心はるるるんでしょうか。それとも悔いが少し残ったのでしょうか。コスモスの揺れは微妙です。学校からの帰り道は多くの中学生を詩人にさせます。この句は具体的な表現が良かったです。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

## 特選 楽譜へととじる思い出終わる夏

西中学校3年 多田 さくら

(評) 思い出を楽譜に閉じ込めて今年の夏も終わりだと鑑賞しました。合唱、または合奏に、暑い夏も一生懸命取り組んだその達成感が一句となりました。苦楽を共にした楽譜です。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

## 特選 ふゆのあさふとんが体をはなさない

西中学校3年 村田 悠唯音

(評) 季語は「ふゆのあさ」。厳密に言えば「ふとん」も冬の季語です。「体が(私)が」ふとんをはなさない」のが事実ですが、この作品、ふとんのせいにして「ふとんが体をはなさない」とした発想がおもしろい。視点を変えることも新しい発想につながります。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

## 特選 秋まつりしゃぎりの音響いてる

西中学校2年 西村 夢乃

(評) しゃぎりの音が響くという滋賀県では長浜や大津の曳山祭が有名です。「秋まつり」が季語ですからこの句は大津曳山祭を詠んだものと思います。しゃぎりとは曳山の行列に奏でるお囃子(はやし)のこと。良い場面に出会い、良い一句となりました。「しゃぎりの音の」と「の」を加えれば、さらに良くなります。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

## 特選 新米の香りで想ふ祖父の顔

西中学校2年 坂田 遙空

(評) 「新米」が秋の季語。おじいさんから送られてきた新米が炊かれ、家族そろっていただくごはん。その香りにおじいさんの顔が思い浮かんだという素直な良い俳句です。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

準特選 ゆうぐれがとてもきれいなあきのそら

彦根中学校3年 西村 龍葵

(評) 全部ひらがなで表現するのも一つの手段ですが「夕暮れ」も「秋の空」も漢字で書いて良いと思います。夕暮れの秋の空が特別きれいだと感じる心の余裕がいいですね。「秋の暮」「秋夕焼」という季語もありますから、いろいろ歳時記で学んでみてください。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

準特選 テスト明けこたつに入って解き直し

西中学校3年 宮下 響

(評) 「こたつ」が冬の季語。期末テストでしょうか。答案用紙が返されてからもう一度解き直してみる。間違いはそのままにしない態度とあたたかくほっこりする「こたつ」で、次へつながる力が生まれます。良い俳句も生まれました。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

準特選 新涼や乾いたそよ風吹いた朝

西中学校3年 田中 美羽

(評) 「新涼」が秋の季語。秋になって実際に感じる涼しさのことです。長く続いた今年の猛暑のあとの涼しさを「乾いたそよ風」と敏感にとらえて良い作品となりました。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

準特選 秋の夜名作の本一気読み

稲枝中学校1年 川口 睦世

(評) 名作と言われている本を一気に読んでしまった読書好きの作者。秋の夜の過ごし方が伝わります。「名作の本」の書名が具体的に表わされていたらもっと良い俳句になります。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

準特選 衣がえタンスのにおいしみついて

西中学校1年 丸岡 篤史

(評) 俳句では「衣がえ」は本来、夏の季語とされます。五、六月頃の制服から夏服に替わりますね。ふだん着も薄物に替わっていきます。ですからこの句を鑑賞する読み手はみな夏服への衣がえを想像するはずです。タンスの中に入れてあった衣類の防虫剤の匂いもしっかりしみついていきますね。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

準特選 秋晴れのきれいな空に手を伸ばす

彦根中学校1年 布部 想史

(評) 「手を伸ばす」というさりげない行為、言葉がとても自然に詠まれていて好感のもてる作品です。秋晴れの大空に向けて深呼吸したか、背伸びをしたかは、読み手が想像します。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

準特選 来月のテスト勉強虫の音と

西中学校2年 黒枝 紗矢子

(評) 来月のテストに向けて勉強している作者。秋の季語「虫の音<sup>ね</sup>」からその時の状況、時間帯が想像できます。虫の鳴き声に励まされているような静かな夜です。BGMのようでもあります。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

準特選 冷えた朝朝日が僕を包んでく

西中学校3年 野村 脩生

(評) 俳句では「冷ゆ」「冷やか」という季語は秋になつて感じるひんやりとした触感のことを言います。朝日のありがたさを身をもって感じたわけですね。「朝日が僕を包んでく」と上手な表現に感心しました。参考までに「冷たし<sup>つめ</sup>」は冬の季語となっています。

(彦根文芸協会 勝又 千恵子)

佳作 秋深し放課後響く合唱曲

東中学校2年 松宮 凜

佳作 遊びたい雪の降ったある日のひる

鳥居本中学校1年 池上 健生

佳作 満月を見る時心も上を向く

西中学校2年 小笹 結愛

佳作 衣がえタンスの中は色深い

彦根中学校2年 門野 七海

佳作 試合の日くやくなつた夏の雨

彦根中学校1年 若松 里香

佳作 秋の田は黄金色の草原だ

稲枝中学校1年 黒木 優衣

佳作 秋涼し友とあるいた中山道

彦根中学校1年 上田 瑞季

佳作 夕ぐれもだんだん早く夏終わる

西中学校1年 砂子 藍花

佳作 帰り道さんまのにおいしています

西中学校1年 宮崎 大和

佳作 さつまいも燃える火の中放り投げ

西中学校1年 内田 湊成

佳作 校庭に歓声響く体育祭

西中学校2年 北原 怜和

佳作 虫の声母なる大地の子守歌

稲枝中学校1年 橋山 歩武

佳作 冬服に着替え去年を思い出す

稲枝中学校1年 北川 詩華

佳作 雪が降り自転車こいだ暗い帰路

稲枝中学校1年 上田 英祥



入選 友達とコスモスながめ歩いたよ

彦根中学校1年 澤田 結依

入選 いく千の花がさくなり彼岸花

彦根中学校1年 小室 仁汰

入選 せみのこえなりひびくかないえのなか

西中学校1年 水田 悠貴

入選 秋の風友の告白せなかおす

彦根中学校1年 中畠 良太

入選 朝の日にはげしく燃えるもみじかな

西中学校1年 藤田 淳暉

入選 ひがん花炎のように燃え盛る

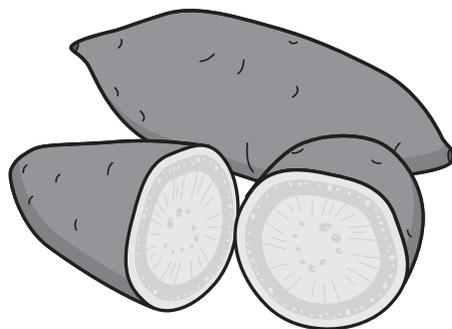
西中学校3年 西畑 穂美

入選 甘ずっぱいキンモクセイがただようよ

彦根中学校2年 平木 杏奈

入選 さつまいもいえにかえると置いてある

西中学校3年 中嶋 生桜



## 【総評】

ひこね子ども文芸作品の俳句部門に今年もたくさんのお応募をありがとうございました。

応募作品二句の人も一句の人もあります。学校を通して応募した人が大部分ですが、個人で応募された人も何人かあり、とても頼もしくうれしいことでした。「できました。見てください。」という声が聞こえるようです。ていねいに時間をかけて見せていただきました。俳句の基本（季語一つ。五、七、五の十七音）が知識としてあるかどうか。選句の基準となりますが、それは学年があがるにつれて身についていきます。「歳時記」で学ぶことをおすすめします。今年選ばれた人も選ばれなかった人も自分の俳句を上達させるにはどうしたらよいか。選者の先生方の選評文をよく読んでください。良い作品を読むことはとても大事です。選ばれた作品も必ずしも完璧ではありませんが「どこをどうしたらもっと良くなるか」参考になることもあります。まず自分の感性を大切に自分の言葉で表現してください。

（彦根文芸協会 勝又 千恵子）

